

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

東京外国語大学は「世界から日本へ、日本から世界へ」と人の循環を支えるネットワーク中核大学」構想により、大学の教育・研究体制のグローバル化を進めている。構想は **I. 多言語グローバル人材養成プラン、II. 発信力強化プラン、III. 大学グローバル化支援プラン**を3つの柱として、次のように進捗している。

I. 多言語グローバル人材養成プラン

世界諸地域の言語・文化・社会に通曉し、世界の多様性・多元性に対応しうる本学独自の多言語グローバル人材養成のため、以下の取組を進めた。

①本学で教育する諸言語の達成度を国際標準に基づき可視化するため、「**CEFR-J x 28 プロジェクト**」を立ち上げ、欧州言語共通参照枠 CEFR に準拠した言語能力指標の開発と達成度の測定方法の構築を進めた。平成 28 年度には本学の専攻言語 28 言語に **CEFR-J による統一基準**を共有し、教育用言語資源の構築を進め、23 言語に関しては A2 まで語彙表の整備を完了した。平成 29 年度より全専攻言語で **CEFR-J 判定**を実施している。英語力の指標としては、学部生の卒業までの目標として「**TOEIC800 点**」を掲げ、英語教育の充実に努めるとともに達成者数を測定している。達成者数の割合は**平成 25 年度の 26.9%から令和元年度の 43.8%**まで伸長している。

②海外協定大学と協働し国際的な環境での教育の提供のため、海外協定校教員による集中セミナー、本学学生と海外協定校の学生がともに参加するスタディツアーや遠隔授業、大学院生の共同指導の実現など、新たな形態による国際連携教育 **Joint Education Program**を展開した。プログラム数は**平成 26 年度 12 件から令和元年度の 32 件に拡大**し、綿密な準備のもと、学生に対し国際的な環境での学習機会を提供している。

③学生の流動性の確保のため、国際戦略に基づく**国際学術交流協定校の拡大**に取組み、平成 26 年度から令和元年度までに、**58 大学と新たに学生交流協定を締結**した。また、留学制度の整理を行い、長期の交換留学・休学留学・自由留学・インターンシップ留学、短期の短期海外留学・短期インターンシップ留学・スタディツアーの各種を整備し、その多くを単位取得を伴うものとして制度化した。これらの取組みにより、単位取得を伴う通年の留学経験者数(学部)が**平成 25 年度の 119 名(3.2%)から令和元年度の 837 名(23.2%)**に増加した。また、**留学を 2 度経験した学部卒業生は、令和元年度に 34.7%となった。**

受入についても協定校の増加に伴う交換留学生数の増加に加え、Joint Education Program による短期の受入れや夏期・冬期の日本語教育ショートステイプログラムの実施により、大学間協定に基づく受入れ数が、**平成 25 年度の 196 名(4.3%)から令和元年度の 523 名(10.9%)**に増加した。

④自主的・計画的な学びの実現のため、平成 27 年度から「**TUFS クォーター制**」を導入した。これにより大学が提供する短期留学プログラム数が増加し、参加学生が増えたのみならず、海外協定校教員による集中セミナーによる Joint Education Program が充実した。

⑤国際通用性の強化のため、英語と日本語を併用して学ぶ「多言語カリキュラム」の整備を進め、学部における外国語による授業数を、**平成 25 年度の 108 科目(7.2%)から令和元年度の 199 科目(15.7%)**に増加させた。また、英語による科目を学部必修科目(導入科目、概論科目)に配置することにより、英語による科目のみを履修し卒業ができる体制の整備を進めた。

II. 発信力強化プラン

①海外における日本発信力強化に貢献するため、日本語教育・日本紹介を行う拠点として本学の主要な海外協定校に **Global Japan Office**を計画的に設置した。その数は、令和元年度末時点で**18 拠点**である。

②本学学生の日本発信力涵養のため、学部学生を対象にした「**教養日本力科目**」の整備、及び令和元年度の「**国際日本学部**」新設により、留学生と本学学生の共学環境を整備し、日本語、日本文化、日本社会等を英語と日本語で**国際的な視野から**教授し、学生の知識と理解を強化している。

III. 大学グローバル化支援プラン

①大学のグローバル化支援のため、平成 26 年度に「**TUFS 留学支援共同利用センター**」を設置した。本学学生向けに留学フェアや各種相談会を実施し、学生の流動性の向上に大きく貢献しているほか、**留学情報提供や多摩地区の他大学留学生への留学支援**を実施することにより、日本の大学のグローバル化支援を行った。

②海外で学ぶ本学以外の留学生への支援のため、本学が設置した **Global Japan Office**を他大学からの学生に開放している。特にヤンゴン大学、リオ・デ・ジャネイロ州立大学、ベオグラード大学の Global Japan Office では支援の活動が活発である。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

① CEFR-J x28 project の取組

本学の学生が学ぶ 28 の専攻言語について、その達成度を可視化し、学生各自の言語能力の向上に資することを目標とし、「CEFR-J x28 project」を実施している。全専攻語共通の語学能力指標として、欧州言語共通参照枠（CEFR）に準拠した CEFR-J 基準を作成し、次の取組みを行っている。

（言語運用能力の可視化）

平成 29 年度には全専攻言語の CEFR-J 基準による達成度評価が可能となり、令和元年度には 98.5% の学生に対して同基準による評価を実施した。

評価結果は、本学の e ポートフォリオ「TUFs Record」上に登録され、学生の語学力を 4 技能 5 領域で可視化している。また、「ディプロマ・サプリメント」の一部として CEFR-J レベルを掲載し、日・英両言語により卒業生に配布することで、国際通用性を持つ証明書として機能している。

（教育用言語資源の構築）

CEFR-J を活用した教育実践のため、CEFR-J レベル別語彙表及びフレーズリストの整備を進めており、利用方法の 1 つとして、e-learning 環境の整備を進めている。学内公開中の「CEFR-J x28 単語学習アプリ」では、現在 23 言語で A2 レベルまでの語彙が英語・日本語をハブ言語として学習可能である。広く社会や他大学の外国語教育に資することができるよう、引き続き整備を進める。

② Global Japan Office による情報発信・共同教育の推進

本学の日本発信力強化及び大学のグローバル化支援を担う Global Japan Office (GJO) を、主要な海外協定校 18 校に設置している。日本語教育・研究の拠点となるフロンティア拠点（2 校）、主として協定校の日本語教育をサポートするアシスト拠点（15 校）、派遣学生によるボランティア活動・日本発信活動等の拠点となる Global Japan Desk (GJD)（1 校）に大別され、拠点に配置するコーディネーターを中心として、各大学・地域の特性に応じた活動が行われている。これらコーディネーターからの活動報告を毎月“活動日誌”として日英両言語により本学ホームページ上で公開しており、他大学関係者や学生、企業からの照会にも適宜対応している。

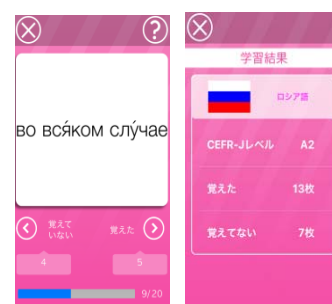
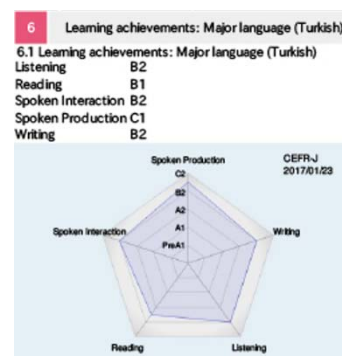
令和 2 年 5 月には上海 GJO との連携により、上海外国語大学の日本語学習の授業と、本学の「日本語を教える」授業をオンラインで接続し、共同授業を実現するなど、本学と協定校との時空を超えた交流とオンライン教育の充実に貢献している。

③ TUFs 留学支援共同利用センターを中心とする危機管理体制

TUFs 留学支援共同利用センターは、本学独自の危機管理システム「ただいま海外留学中」を運用し、学生の海外渡航の情報を一元的に集約し、留学中の学生との日常的な連絡体制を構築している。加えて海外協定校の担当者や各 GJO コーディネーター、外部危機管理会社と密に連携することにより、非常事態においても迅速な安否確認や注意喚起を実現できる環境を整備している。

派遣前には、包括的な「危機管理説明会」のほか、「感染症対策」「メンタルヘルス」「女性のための危機管理」など様々なテーマにより注意を喚起することで、学生の危機管理への意識を高めている。また、教職員においても「危機管理シミュレーション訓練」を実施し、緊急時の組織的行動力の向上を図るなど、危機管理に向けた取組みを続けている。

これらの取組みにより令和 2 年 3 月以降のコロナ禍においても、留学中の学生約 700 名の状況を迅速に把握し、早期帰国のメッセージを伝えたことで、4 月までに約 600 名の帰国が実現した。帰国が困難な学生達についても引き続きフォローを行い、順次帰国を確認している。



・ Global Japan Office

① ヤンゴン大学 (ミャンマー) University of Yangon (Myanmar)	② 漢江大学 (台湾) Tamkang University (Taiwan)
③ ロンドン大学 SOAS (英国) SOAS, University of London (United Kingdom)	④ 上海外国語大学 (中国) Shanghai International Studies University (China)
⑤ 韓国外国語大学校 (韓国) Hankuk University of Foreign Studies (Korea)	⑥ カイロ大学 (エジプト) Cairo University (Egypt)
⑦ サラマンカ大学 (スペイン) University of Salamanca (Spain)	⑧ グアテマラ大学 (メキシコ) University of Guanajuato (Mexico)
⑨ ベオグラード大学 (セルビア) University of Belgrade (Serbia)	⑩ リオ・デ・ジャネーロ州立大学 (ブラジル) Rio de Janeiro State University (Brazil)
⑪ 国際人文開発大学 (トルクメニスタン) International University for the Humanities and Development (Turkmenistan)	⑫ ヴィータウタス・マグナス大学 (リトアニア) Vytautas Magnus University (Lithuania)
⑬ ライデン大学 (オランダ) Leiden University (The Netherlands)	⑭ リヴィウ大学 (ウクライナ) Ivan Franko National University of Lviv (Ukraine)
⑮ 高等経済学院 (ロシア) Higher School of Economics (Russia)	⑯ フレトリア大学 (南アフリカ) University of Pretoria (South Africa)
⑰ メルボルン大学 (オーストラリア) The University of Melbourne (Australia)	

・ Global Japan Desk

⑰ プロテスタント人文・社会科学大学 (ルワンダ) Protestant Institute of Arts and Social Science (Rwanda)
